

"Comparative Textual Study on Newspaper Advice Columns
in English and Japanese"

「日英対照研究：新聞人生相談コラムにおけるテキスト分析」

植田 栄子

新聞や雑誌における人生相談コラムは、日本以外の国でも容易に見出されるやや特殊な手紙形式のコミュニケーションである。日本語教育においては特に中上級の読解クラスで、人生相談のコラムが教材として扱われることがあり、さらにディスカッションの身近なトピックとして発展させることもある。人生相談コラムの質問および回答内容は、その国の文化社会の一面を写し出し、また言語表現はその国で好まれるコミュニケーションスタイルの傾向を示唆しているとも言えよう。質問者も回答者もそれぞれのFTA(Face threatening act)(Brown & Levinson 1978)に関わる言語活動である。

本研究では、日米の代表紙に掲載されたアドバイスコラムのテキストの対照分析を行うことで、日本語と英語におけるアドバイスコラムの共通点と相違点を明らかにすることを目的とした。(今回は最もFTA行為に大きく関わる回答部分だけを取り上げた。)

対象テキストは、日本とアメリカで各々多くの購読者数を獲得していると予想される人生相談コラム(読売新聞「人生案内」とWashington Postその他掲載「Ann Landers」)を取り上げ、各10編ずつの回答を無作為抽出し分析した。

分析方法は、筆者自身によるCombined categorical analysisを試みた。この方法は、回答部の各アドバイス文を、2つの観点、すなわち(1) Positive vs. Negative adviceそして(2) Explicit expression vs. Implicit expressionかどうかという点を、一定の統語的及び意味的判断基準に基づいて、コーディングしたものである。得られた結果は、まず英語では、アドバイスには該当しないImplicit commentが最も多く(36.8%)、次いでPositiveでExplicitなアドバイス(31.6%)が2番目であった。一方、日本語では、PositiveでImplicitなアドバイスが27.2%と最も多く、以下PositiveでExplicit(24.7%)、Implicit comment(22.2%)という内訳となった。日本語では、Negativeなアドバイスが多く見られ、Explicit・Implicitな表現に関わらず、日本語は英語より、Negative adviceが優勢という傾向が見られた。Positive adviceについては、日英間の大きな違いは特に示されなかった。次に、Explicit/Implicit expressionという観点から見ると、日英共に、Implicitな表現の方がExplicitなものより数を上回った。このように日英共にImplicit優位の傾向を示したが、特に日本語においては英語よりさらにImplicitな表現形式の割合が高い結果となった(日本語[Implicit]: 61.7%、英語[Implicit]: 54.4%)。

これらの結果より考察されることは、日本人は他人にアドバイスを与える際、アメリカ人より強く相手へのFTA回避を行うため、Implicit adviceの割合が高い。換言すれば、アメリカ人は日本人よりそのアドバイスの内容がPositiveかNegativeかに関わらず、直接的な表現を相対して好むと言えよう。次に、興味深い点は、日本語のアドバイスには、より大きなFTAを質問者に与えるリスクの高いNegativeな内容が英語より多かったことである。日本人は他人との対決を好まず、FTA行為回避に敏感だと一般的に言われるが、なぜ今回のアドバイスコラムの日本語テキストにおいてNegative advice("Do not do X")が多く出現したのか、今後さらに質問内容との関連や広範囲にわたるデータに基づく検討が必要である。

このような日英の対照分析を行うことにより、それぞれの文化・社会において好まれるコミュニケーションストラテジー(今回は「アドバイス」)の特徴を言語的に顕在化していくことは、広く日本語教育においても(同様に英語教育においても)、また教師・学習者双方にとっても有効と考える。

(ジョージタウン大学大学院および東京大学大学院博士課程)